

小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	17	施策名	子どもの教育の充実	
小施策コード	17-3	小施策名	高等学校教育の充実	
小施策 主管課等コード	202500	小施策 主管課等名	学務教職員課	
評価責任者名	久保 智克		内線番号	7320
評価シート作成者名	麻生 祥之		内線番号	7321

Step 1 小施策の全体像

小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

現状と課題	生徒一人一人の進路目標を達成するため、ソフト・ハード両面からの教育環境の整備充実を図る必要がある。
取組の方向性	学力の向上と部活動・特別活動の充実を図るとともに、規律ある生活習慣の確立と保健衛生・安全指導を推進するほか、一人一人の個性や希望を生かした進路指導の充実を図る。
対象 (誰(何)を対象として行うのか)	高校生
意図 (対象をどのようにしたいのか)	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上が図られる。 生徒一人一人の希望に沿った進路の実現が図られる。

Step 2 成果指標の推移

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていくことを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A 進学・就職進路達成率 (→) (進学・就職進路達成者数(実人数)/卒業生数)	%	98.3 (294/299)	99.0 (294/297)	98.5	98.5
B 国公立大学合格率 (→) (合格者数(実人数)/卒業生数)	%	15.3 (45/295)	11.4 (34/297)	15.0	15.0

Step 3 市民ニーズの把握

平成 25 年 3 月議会では校舎の老朽化について、12 月議会では就職状況についての質問があり、また、平成 28 年 3 月議会では英語科の廃止や、個性ある市立高校づくりに努めてほしい旨の質問があり、市民の市立高等学校に対する要望や関心は強いものである。

市としては、文武両道の教育方針の下、盛岡市民の期待と要望にこたえるため、生徒一人一人の個性の伸長と能力開発に努め、心身ともに健全で連帯を重んじ、協調性に富む調和のとれた人間形成をめざしている。

Step 4 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	盛岡市立高等学校は、県内唯一の市立高等学校である。そのため、市民の寄せる期待も大きい。	70
	国・県・ 他自治体	教育活動は、県立の高等学校と連携を密にして進めている。また、教員の人事やサービスにおいて県立高等学校と一体となった運用を行っている。	15
	市民・ NPO	学校教育の振興のため P T A などの支援が積極的に行われている。	10
	企業・ その他	生徒の進路実現のため、採用に係る企業等の役割がある。	5

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

盛岡市として、市民の期待と要望にこたえられるよう、次代を担う有為な人材を育成する高等教育の場が必要であり、そのため、生徒一人一人の個性の伸長と能力開発につとめ、心身ともに健全で連帯を重んじ協調性に富む、調和のとれた人間形成を目指しているため、現状維持とするもの。

Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 生徒が志望する大学に進学している。(国公立大合格実数 34人)
- ・ 生徒が志望する就職先に就職している。(12年連続 就職率100%)
- ・ 生徒が部活動に意欲的に取り組んでいる。

(2) 成果をあげた要因

- ・ 受験に向けた指導や進路指導を効果的に行うことにより、学力の向上を図る授業が充実した。
- ・ 文武両道の教育方針の下、生徒一人一人の進路目標の実現に向けて、3年間を見通した進路指導計画に基づく指導や生活指導と一体化した進路指導等に取り組んできた。
- ・ 就職支援相談員の配置により、企業と生徒の双方から最適なマッチングが行われるなど、生徒の希望に合った進路指導が充実した。

(3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

- ・ 教育の成果については、長期間継続的に取り組むことが必要であり、短期の成果では図れない部分が多い。
- ・ 引き続き、学力の向上を図る授業の推進と進路指導の充実に努める。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

- ・ 年度計画で長寿命化修繕を行っているが、修繕を要する箇所が多数生じている。
- ・ 教員の能力向上、進路指導の充実が求められている。

(2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 昭和57年に建築した校舎等建物が、34年を経過して老朽化が年々進行しているため。
- ・ 教育ニーズの多様化・高度化により、生徒がモチベーションを高め、主体的に活動する授業の展開が求められている。

(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

- ・ 短期的な課題としては、限られた財源の中で、適切な優先順位をつけて着実に修繕を行うこと、長期的な課題としては、今後の市立高等学校の建物のあり方を検討していく。
- ・ 実践的教員研修による教員の能力向上を図る。

3 改革改善案（上記1(3)及び2(3)で設定した課題に対する具体の取組）

- ・ 施設の老朽状況や利用状況などを踏まえた上で、修繕の優先順位をつける。
- ・ 建替え又は大規模改築等について、費用対効果、適正規模等の検証等を行いながら、今後の市立高等学校のあり方について検討していく。
- ・ 岩手大学の教職大学院と連携し、生徒がモチベーションを高め、主体的に活動する授業づくり及び対話による授業展開についての教員研修を実施し、教員の能力向上を図る。
また、それにより、生徒の意欲が引き出される授業の改善へとつなげる。

Step 6 小施策と構成事業の関係性

- 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業
該当事業なし。
- 2 1で記載した事業についてその理由
- 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）